

議事要旨（第2回 大阪府中央卸売市場再整備検討会議）

日時：令和5年1月31日（火）午前8時55分から午前10時40分まで

場所：中央卸売市場管理棟7階 大会議室

出席：小野委員、植田委員、宮前委員、三木委員、酒井委員、川邊委員、花木委員、西田委員、榎本委員、金丸委員（計10名 ※藤田委員は欠席） 事務局、受託業者（山下PMC、三菱UFJ R&C）

委員からの主な意見

○必要な機能と施設規模について

（委）計画面積にハブ機能やランプウェイ等を加えると、現状よりも面積が大きくなるのか。

（事）ハブ機能や車路、ランプウェイ等を含めると面積が大きくなる可能性がある旨回答。

（委）ハブ市場化も踏まえた売上計画を前提にした施設規模となっているのか。

（事）現状の利用面積に加え、卸業者への事前ヒアリング結果も一定踏まえたが、必要面積は今後の議論の中で精査していく旨回答。

○余剰地活用について

（委）民活ありきの話になっているように感じるが、なぜ民活を行うのか。

（事）市場機能を強化しつつ、市場が将来にわたって自立的に運営できるようなスキームの検討が必要な旨回答。

（委）余剰地を活用する民間企業について、どのような業者を想定しているのか。

（事）食品流通関係の企業を誘致できれば、市場にとってもメリットがある旨回答。

（委）民活地（余剰地）7万㎡ありきになっているように見える。分棟型で垂直搬送になると、作業効率が低下するなど、デメリットが大きい。市場施設・機能を確保した上で余剰地を活用すべき。

○施設配置計画（ゾーニング）について

（委）場内事業者は、たたき台で示されたゾーニングについて容認できず、このたたき台をベースに意見交換を行っても無意味ではないか。

（委）たたき台のゾーニングについて、3案のみではなく、例えば、青果・水産ともに卸売場、仲卸売場を1階部分に平面で確保するなど、現状の市場に近い新たな第4案も検討してもらいたい。

（事）今後の議論の中で課題を明らかにし、ゾーニング案を作り上げていきたい旨回答。

○概算整備費と使用料について

（委）整備費について、将来的な建築資材の高騰は加味しているのか。

（事）これまでの建築資材等の高騰は一定反映させているが、将来の見通しを正確に織り込むことは困難な旨回答。

(委) 使用料について、いつ頃具体的な数字を示してもらえるのか。

(事) 各施設の使用料は、面積や仕様が固まり、整備費の精査がもう少し進んだ段階で示したい旨回答。

(委) たたき台で示された、使用料の現行比倍率 1.5 倍は、上限とは限らない、ということか。

(事) 現行比倍率 1.5 倍という数値から、更なる使用料の増加要因が生じた場合には、整備費等を削減する必要がある旨回答。

○今後のスケジュール等について

(事) 令和5年2月から3月の2か月間で、集中的に分科会を開催する。分科会における意見を基にたたき台を修正し、第3回の検討会議の場で議論いただく予定。